

学園

だより

平成23年7月1日発行
財団法人

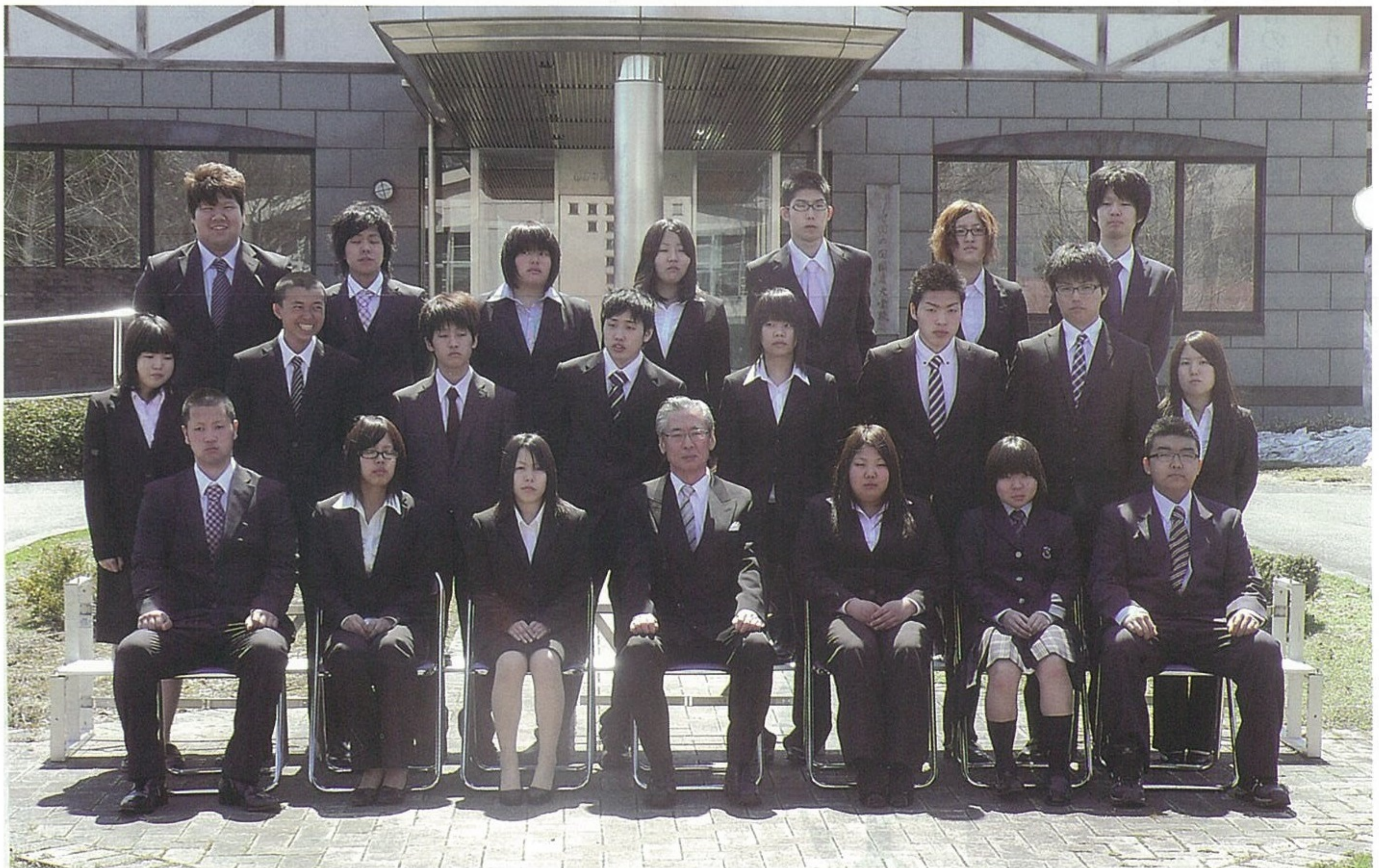
中国四国酪農大学校

電話 (0867) 66-3651

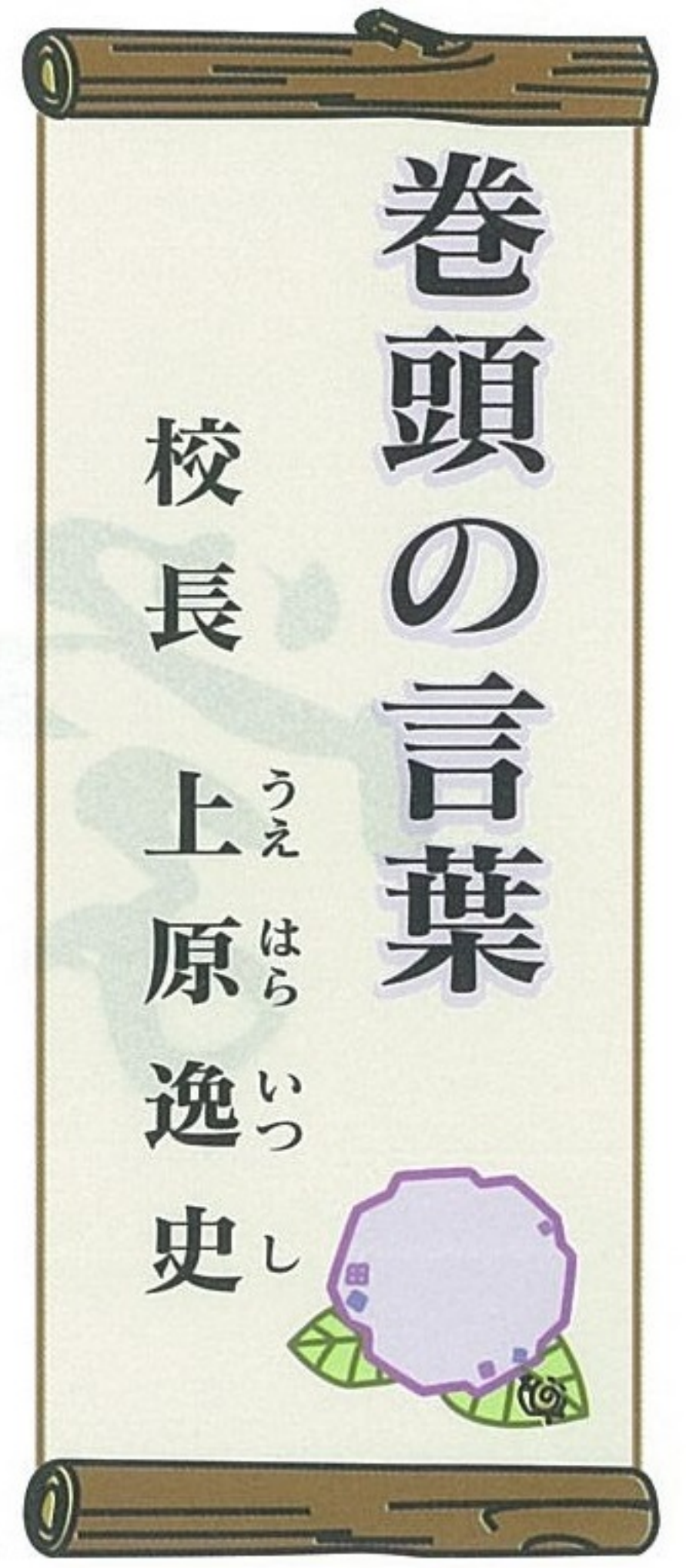
FAX (0867) 66-3651

E-mail jerko@mx4.et.tiki.ne.jp

<http://ww4.et.tiki.ne.jp/~jerko/>



第47期生 入学式



このたびの東日本大震災に被災されました皆様にお見舞い申し上げますとともに亡くなられた方々にお悔やみ申し上げます。

このような状況の中、第45期生13名就農4名、牧場勤務7名、畜産関係団体1名、大学付属農場1名を送り出しました。また、第47期生の入学式を4月6日に挙行し21名が入学しました。47期生も入学して2ヶ月が

過ぎましたが、作業そして環境にも慣れ頑張っています。

ここ蒜山も、例年以上の大雪に見舞われ融けるのが遅いのではと心配していましたが、いつもの時期には日陰を除いて融け安心しました。しかし、牧草の生育は昨夏の暑さ、雪が融けた圃場に積雪が何回もあったことが影響したのか悪く、収量が例年より少ないのではないかと思っています。

酪農を取り巻く情勢は、昨年、宮崎県に発生した口蹄疫は、関係機関の努力によって早期に終息されまし

たが、韓国、台湾に発生し予断は許されないのではないかと思われれます。また、デフレの長期化、中東・北アフリカ諸国の政治情勢の緊迫による原油価格の高騰による輸送費の値上げ、自然災害の多発で供給不足が懸念される穀物価格の高止まり、TPPの問題と厳しい状況であります。このようなか中、大震災からの復興が第1ではないかと思いません。私たち震災に遭ってない地域は、暗い気持ちにならず私たちができることを前向きにおこない復興の1翼を担っていかなければならぬと考えています。

また、TPPの問題も大震災により影を潜めているかに見えますが、政府の動向を注視しなければなりま

せん。今の日本の第一次産業の基盤は耕作放棄地の拡大、担い手の不足、安定した農業所得の確保等にみられるように弱い状況です。このような状況を改善し、強い基盤を築いていかなければなりません。

将来の酪農産業の基盤を強めていくためには、厳しい状況の中で頑張っておられる先輩方に続く、自主性と社会人としての協調性を持ち、優れた経営感覚そして国際感覚のある人材を育成していくことも重要であるとと考えています。

当酪農大学校も新しい時代を切り開く知識と高度な技術を身に付けた実践力のある酪農の担い手を育成する養成機関としての役割を果たしていきたいと思っ

いますので、皆様の限りないご支援とご指導を賜りますようよろしくお願い致します。





第十五期

亀山 昌穂

未曾有、想定外、聞き慣れたしまった言葉に震災の被害の甚大さを痛感し被災された方々、亡くなられた方に追悼の意を表し心よりお見舞い申し上げます。

又、同業者である酪農家の方々の被害、風評被害からの一日も早い復興をお祈りいたします。

さて、本校におかれましては三月に13名の方が新たに社会人として旅立たれ、四月には21名の方が希望を抱いて入学されたと聞きます。私の在学中は、現在の上原校長が第

一牧場の場長で居られた時代でした。三十年程前です当時、牛舎の機械設備はだいたい整っていたものの、外での実習は多くが手作業だったと記憶しています。ですから必然的に学生同志のチームワークは欠かす事の出来ない重要なものでした。このチームワークは寮生活においても必須で良い事はもちろん、ほんの少しの悪いことにも抜群の団結力があつた十五期生だった様に思います。ちなみに始末書の書き方を学習しマスターしたのも、この時でした。同じ目標を持った仲間との寮生活は、将来の夢なり計画なりを語り合う絶好の場であつたと思います。多少の進む道の違いはあつたものの、すばらしい友人達と出逢う事ができました。

人との出逢いと言いますと

現在、我が家は学生さんのヘルパー研修の受け入れをさせていただいております。研修生の方の中には、作業は何も言わなくても何でも出来るが敬語の使い方が下手な学生さん、遅刻をして作業十分前に涙顔になって駆けつけてくれ残り十分間息をせず作業してくれたい学生さん、小さな体でパイプラインに飛び付いてミルカーを運んでいた負けず嫌いの学生さん、雨が降ろうが、道路に雪が積もつていようが走り続けた忍耐力のある学生さん、人と接するのが苦手な学生さん、人と接するのが苦手で話し下手だけど黙々と作業を続けてくれ卒業式では理事長表彰をもらった学生さん、色々な学生さんとも出逢う事ができました。皆、元気に大変さこちなかつた搾乳が校外研修を終えられ、学校に帰って来られ、たまにアルバイトをお願いした時には手際よく作業をこなされ上手に搾乳してくれます。俗に言う「他人の飯を食う」校外研修の意義が表われていると思います。在校生の皆さん、この学校には色々なチャンスが数多くあります。日々奮闘され一つでも多くのチャンスをつかみ、それを将来に生かしてください。

とりとめの無い事を書き最後になりましたが、卒業生の皆様におかれましては体には充分気を付けられ、ますますの御発展と御多幸を祈念いたしますと共に、中国四国酪農が将来の日本の酪農を担う若者が集まれる場所である事を願います。



在校生 一年生になって

第四十六期生

嵐 雄一朗

時の流れは速いもので酪

農家の後継者となるべく中国

四国酪農大学に入学してから

もう一年が経ちました。私は

一度、酪農とは関係のない大

学を卒業し社会人として世に

出てからこの学校に来たので

酪農大学四十六期生の中でも

頭ひとつ年齢が離れており、

右も左も分からない勉強や実

学 園 だ よ り

習よりも、同期生や先輩たち

とどのように接すれば良いか

のかが不安というものでし

た。しかし、それも杞憂でし

がなく今では仲間として溶け

込むことができ心身共に充実

した生活を送れています。ま

さに仲間たちの若さが羨まし

く思うこともあり、実際二年

の文章を書いている最中も私
が書くよりも、他の四十六期
生が書いたほうがフレッシュ
な文章が楽しめるのではない
かと考えるほどです。

さて、四月から研修が始

まり二年生としての生活が始

まりました。一年生の時のこ

とを思い返すと、座学で習っ

た事を実習中に確認したり、

作業効率の向上に奔走してき

ました。牛の生態から牧草の

種類と初めて知る知識が多く

新鮮であり、また実家での作

業内容の裏付けになったりと

非常に充実したものでした。

今思えば最初の頃は搾乳時の

前絞りができないことや牛を

捕まえることができなかった

ことは良い思い出なのかもし

れません。

先生方にも様々な牛に関

する話を聞かせていただいた

とても参考になりました。

校内研修期間中では以前

よりも牧場にいられる時間が

増え、今まで手を付けること

ができなかった仕事や経営を

するうえで役に立つ経験が

めるようになりました。また

それに加え、これからは先輩

として新入生の指導を行う立

場にもなりました。指導

は私たちが積んできた経験を

活かして、今後四十七期生の

彼らがよりよい作業効率の発

展ができるようになるための

第一歩です。先代から私たち

私たちから次代へと続く、ど

こでも行われることですが、

引き継いでいく過程はなかな

か経験できるものではなく、

今後の人生の中で何回あるか

どうか分かりません。私が上

手く物事を教えられたかどう

か不安が残りますが、人は考

えて成長するものなのでお互

い精進し糧になれば幸いです

よう。

そして、二年目の大きな

目的である校外研修は、普段

見ることができない他の農家

の内情を知ることができま

す。牛の飼い方から、草地の

管理、いろいろな雑務、一つ

一つが同じではなく自分のや

り方とは違い、比較すること

によって得られる経験はとて

も勉強になることでしょう。

また、ただ研修で経験を

積まさせていただくだけでな

く、酪大生として、成人とし

て、研修農家の御迷惑を掛け

ぬよう、役に立っていただけら

と思います。

その後も研修から帰って

きてからも、削蹄や受精卵移

植の資格試験もあり、二年生

になって卒業するまでにもま

だまだ学ぶべきことは沢山あ

ります。当然のことながら生

きている以上は常に学ぶこと

ばかりなのでしようが、私の

酪農生活の原点がここにある

のは間違いのないでしょう。こ

れからも酪農家としてどこに

も恥じることはない経営がで

きるよう精進していきたいと

思います。

今年も残り半分となろう

としています、まずは研修か

ら帰ったときに成長している

であろう同期の仲間において

いられないように研修に励ん

でいくことにします。

行く先々での出会いと出

来事を笑顔で語らえるよう

に、そして中国四国酪農大学

校を卒業したとき頼もしくな

ったと言われるよう残りの

日々を過ごしていこうと思

います。





初夏の候、卒業生の皆様にはお元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。

今冬の記録的な大雪に続き、遅い春の訪れに牧草の生育を心配させられました。が、1番草の収穫も終わり、ようやく夏らしい気候になってまいりました。

関東・東北大震災につきましては、停電、乳廃棄、牧草の放射能汚染など、厳しい酪農状況を聞くにつれ、被災された方々のご心痛を察するにあたり、一日も早い復興を心から祈念してお

ります。今、我々が、毎日何

不自由なく牛を飼い、乳を搾れることに改めて感謝するとともに、酪農業を盛り上げるため、西日本から元気を発信したいと思えます。

さて、第一牧場では、カウコンフォートや給与飼料の改善等により、ようやく乳質、乳量ともに安定してきました。おかやま酪農協乳質改善表彰において、3年連続表彰を受け、賞状とトロフィーを授与されました。

また、新たな取り組みとして、受精卵移植を活用した和

牛生産を行い、乳肉複合経営の実践を始めました。繁殖和牛の放牧飼育、受精卵採取、主に第二牧場のジャージー牛への受精卵移植、和牛子牛育成など、省力的で生産性の高い経営を目指

しています。育成した子牛は、和牛子牛市場に出品し、学生たちによる競り売りの体験学習に供する予定です。

共進会につきましては、蒜山地区改良同志会や関係者の皆様方のご指導を仰ぎながら、北海道全共の檜舞台を目指し牛作りを進めてきました。残念ながら全共が中止になってしまいました。次の檜舞台を視野に入れながら、これまでの成果を基に、今後ともさらなる牛作り、牛群改良に邁進する所存です。

最後に、牧場スタッフですが、昨年度からの引き続きで、関場長、樋口技師に加え、4月に新採用された山田技師の計3人で担当しております。お近くにお寄りの際には、第一牧場にぜひお立ち寄りください。

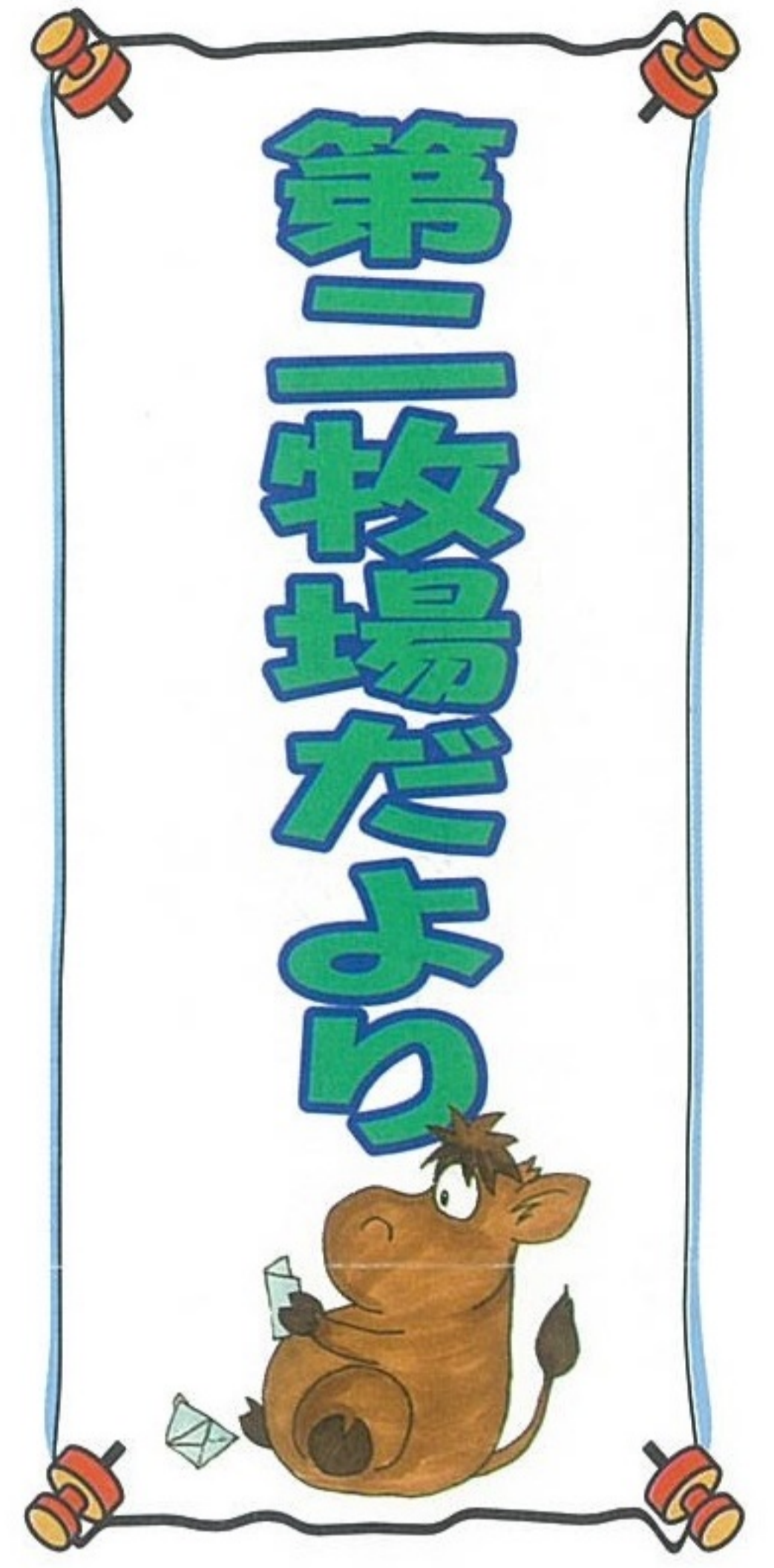


飼養頭数

	乳 牛		肉 牛
第1牧場	経産牛	47頭	和牛 7頭
	育成子牛	30頭	
第2牧場	経産牛	86頭	なし
	育成子牛	40頭	



第二牧場だより



長かった冬が終わり、蒜

付けを取りやめ、放牧頭数

山でもようやく緑が生えそ

を大幅に縮小することとし、

ろいはじめ、例年より遅い

その分広い牧草地を生かし

夏の訪れがかすかに感じら

て良質の牧草生産を重視す

れようとしています。卒業

る予定で進めており、人員

生の皆様におかれましては

の削減や収穫機械の老朽化、

ますますご健勝のこととお

高騰する輸入粗飼料に対応

慶び申し上げます。

するとともに、作業の効率

第二牧場は今年度から一

化を図っているところです。

名減となり、芦田場長、池田

しかし、雪の多い蒜山地方

技師、村田技師、西村技師

でも比較的標高が高く、土

の四人体制となりましたが、

地が開けているため風雪の

学生・職員ともに士気は高

影響を大きく受ける第二牧

く、日々協力して作業に取

場の草地では、今冬の豪雪

り組んでいるところです。

の影響か雪融けが大きく遅

今年度は、長年続けてき

れ、牧草の生育に不安の兆

た飼料用トウモロコシの作

しがみえるうえ、梅雨入り

が大幅に早まるなど、牧草

収量に関しては予断を許さ

ない状況です。ただし、今

年度より長年の懸案事項で

した牧場草地内の強害雑草

「ワルナスビ」の駆除に取り

組む予定としており、来年

度以降はさらに良質な牧草

の収穫が見込めると考えて

います。

また、第二牧場では昨年

度、良質な牛乳をしつかり

生産することを目標に、乳

質の改善と乳量の増加に取

り組んできました。特に夏

場の乳脂率の大幅な低下が

課題でしたが、特に大きな

乳質の悪化もなく一年間を

終えることができ、蒜山管

内でもトップクラスの乳質

を達成することができまし

た。乳量についても、繁殖

の順調さから搾乳頭数を一

定に維持できたこともあり、

出荷乳量が一日あたり一四

〇〇kgから一五〇〇kg程度

で安定し、長年の課題であ

った乳量の安定化について

も、ある程度達成できたの

ではないかと思っています。

今年度については、長年不

調だったパーラーの搾乳設

備を今年五月に部分更新し、

四分房分割搾乳が可能とな

ったこともあり、乳房炎発

生数の減少や、さらなる乳

質の向上を期待していると

ころです。

今後の牧場方針としては、

乳質・乳量の安定を軸に、

牛群の改良に取り組み、将

来的な乳量増産の基礎を作

っていきたいと考えていま

す。このため、場内優良牛

からの後継牛確保や、受精

卵移植技術を使用した改良

の促進に加え、一般牛には

和牛受精卵の移植も進めて

いきたいと思います。また、

継続的な牧草の確保につい

ても重要な課題と捉え、老

朽化した草地の更新につい

ても力をいれて経営を進め

ていきたいと考えています。

最後になりましたが、蒜山

にお越しの際は、是非第二

牧場にもお気軽にお立ち寄

りください、職員一同心よ

りお待ちしております。



職員紹介

校長 上原逸史 ○
 副校長 広金弘史 ○
 (教務課長兼務)

総務課

有木正人
 有富英美

教務課

長綱則之
 岡崎奈々
 法花千恵美

技師

岡崎奈々
 法花千恵美

臨時職員

谷口育子
 小椋麗子

調理員

山田祐季 ◎
 樋口照夫

技師

関 哲生

技師

池田良弘
 西村祐枝
 村田崇浩

◎ 内部異動者
 ○ 新職員

新職員 ごあいさつ

副校長 広金 弘史

真庭管内の勤務は五年ぶりとなります。
 従来は行政職として第一牧場の牛舎整備を事業対応しました。学校現場は初めてです。新入生同様、緊張感をもちながら体当たりで頑張ります。

第一牧場 技師 山田 祐季

東海大学を卒業し、この4月から勤務する事になりました。大学時代は近くの酪農家でアルバイトをしており、牛に関わる仕事に就くことができてとてもうれしく思っています。まだまだ未熟者で戸惑うことも多いですが、早く仕事を覚えるように頑張ります。よろしくお願いします。

いろいろな行事



農大つどい



同窓会



蒜山登山



オープンスクール